

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 2 columns: Field Name (e.g., 事業所番号, 法人名) and Value (e.g., 0196400089, 株式会社 萌 福祉サービス).

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL: http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou\_detail\_2017\_022\_kani=true&JigyosyoCd=0196400089-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 2 columns: Field Name (e.g., 評価機関名, 所在地) and Value (e.g., タンジェント株式会社, 北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1番6号).

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

旧有明小学校跡の有効利用として初山別村が設立した高齢者グループホームです。施設名も村民からの募集で決め「エルムの里」となりました。名称の通りハルニレの木々が多くあり自然環境豊かな地域でゆったりと生活して頂ける様取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

近くには、桜ロードや夕日が綺麗な金毘羅神社、キャンプ場や天文台で有名なみさき台公園があり、地域の交流の場に利用されている多目的ホールを有する鉄筋コンクリート2階建て1階部分の1ユニット(定員:9名)のグループホームです。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: Item No., Item Description, Achievement Status (radio buttons), and Achievement Level (1-4). Rows 56-62 are visible.

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「介護理念」にある利用者様の人権を護り、生命を護るために日々の暮らしをどう豊かに持っていたか、常に職員間で話し合いを行いながら実践するようにしています。	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所独自の介護理念を日常業務やミーティング等を通じて話し合い、その理念を共有して実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎年、村長、議会議員を初め地域の方や役場職員に参加していただいて行事を行なっており、今年は職員不足により実施できませんでした。	地域の要望で廃校になった小学校を再利用しており、クリスマス会を開催して地元住民や役場職員、議員等が参加して地域との交流や協力体制構築に取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々にお集まり頂いた時に、認知症に関する情報を発信しています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	保険者を含め、地域の方の参加もいただきながら、地域に根付いた施設となるようご意見をいただき、改善すべき点があった場合には、早急に対応をするようにしております。	地域の人々や家族等が参加する運営推進会議を開催して、事業所の取り組み状況や事故防止対策等の具体的内容について話し合い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月実績報告をし、空室等が出る場合にはすぐに包括支援に報告をし、次の入居者様についての情報等をいただき、スムーズな入居となるようにしております。	行政担当者とは、日常業務を通じて報告や相談、助言等を得ながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する資料を使い勉強会を行っており、身体拘束については行っていません。	指定基準における禁止の対象となる具体的な行為を身体拘束廃止や高齢者虐待防止等の内部研修会開催で正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。また、接遇向上委員会を設置して、職員間で共有するよう努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待に関する資料を使い勉強会をこなっており、虐待はありません。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要な場面は少ないですが、その内容を理解し、必要性がある場合には関係機関に繋げていくようにします。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には、確認の為のチェックシートを使用し、項目ごとにご理解いただけたかの確認を行なっております。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	アンケート結果やご家族のご要望を聞きながら反映するようにしています。	法人全体で家族アンケートを実施して、利用者・家族等が意見や要望など言い表せる機会を設け、そこでの意見等を運営に反映させるよう努めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングだけではなく、日々の業務の中で何か提案があった場合には、検討しながらその意見・提案を反映できるようにしています。	職員アンケートを実施して、職員からの意見や要望、提案等を言い表せる機会を設け、そこでの意見や提案等を運営に反映できるように努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員同士が常に声を掛け合いながら、お互いの業務を把握しており、継続して働いていけるような環境づくりに努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経験年数の長短があり、経験・知識のある職員からの指導を受けたり、資格を取るための研修等の機会を持つようすすめています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	行っています。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人が不安を抱えぬよう、パートナーを中心にご本人と積極的に関わり会話の時間を持つように努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居面接・入居契約時等、ご家族様が入居に対してどのような心情であるかを考え、入居後の安心につながるよう連絡をとるようにしております		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の情報と、入居後のご本人の現状に差異がある事が多いので、介護方針指示書を確認しながら、必要とするサービスを見極めるようにしています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	パートナーを中心にご本人との関わりを持つようにし、その時々で何を想っているか考えるようにしています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の想いから逸脱しないよう、介護の内容についてもご家族に確認し、ご理解をいただくようにしています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご面会に来られるご家族・ご友人との繋がりが継続されるよう努めております。	クリスマス会やジンギスカンパーティーの開催等で地元の人々と交流する機会を設けたり、初詣や地域の行事参加で馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	他人同士と一緒に暮らしを共有する中でトラブルが起きないように、それぞれのお考えを聞くように努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も関わる事があるので、支援できるように努めています。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人がどうしたいかを最優先にし、それが叶うよう対応をしています。	一人ひとりのアセスメントを実施して、趣味や嗜好、生活歴を把握しながら、職員間で情報を共有し、本人本位の支援を検討している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にご家族や居宅支援等からの情報を受け、どのような暮らしをしていたかの確認を行い、それぞれの方の生活習慣が守られるよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	お一人おひとりが毎日何を感じておられるか把握し、ただ時間が過ぎていかないよう関わるようにしています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当のみの考えとならぬよう、現場の職員の意見をいただきながら、介護計画を作成しています。	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人・家族の意見や要望、ミーティングやモニタリングを通じて職員からの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。また、状態変化時には、都度見直しを実施している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録から情報を得て、計画を見直す際に活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その日その日でご本人の考え等が変わってくるので、関わり方についても常に柔軟となるよう、職員それぞれがどう実践しているか、その結果がどうであったか確認をするようにしています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域に根差した施設運営が可能となるよう、地域の方の協力をいただくと共に、施設側からの情報発信もするようにしています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	在宅時からのかかりつけ医への受診が継続されるよう支援を行なっています。	協力医療機関との連携や日常の健康管理等、通院への支援等で適切な医療を受けられるようにしている。また、受診は本人や家族の希望するかかりつけ医となっている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日、共有フォルダーでの状態変化の報告を行い、その都度指示を受けています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期的な確認を行い、ICへの参加もしています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	施設で出来る事の限界を説明し、医療機関との連携を図って行く事をお伝えしています。	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ができることを十分に説明しながら指針を職員間で共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	取り組んでいます。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の避難場所に指定されております。村の担当者に確認しながら災害マニュアルの見直しや、受け入れについて助言いただいております。	消防署や近隣住民の協力を得ながら年2回の火災避難訓練を実施している。また、鉄筋コンクリート造りで安全面に配慮され、スプリンクラーや火災報知器、通報装置等を完備して定期点検も実施している。	平成30年度に村の災害マニュアルが更新されるので、地域住民の受け入れ方法や物資の保管等の検討を予定しているため、その実践に期待します。

#### IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	それぞれの性格をきちんと把握し、どのように関わる事で安心していただけるか職員間での共有を図っています。	接遇向上委員会の設置や内部研修会開催で一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉がないように職員間に周知している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事に関してはご本人の嗜好を優先し、心地よい食事が出来るよう配慮しています。また、言動を確認しながら、その時々何を望まれているのか探りながら提案するようになっています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	常にご本人の生活パターンに合わせるように心がけ、職員の手が必要な時にはサポートをするようになっています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分で衣類を選んで着られる方もおりますので、それを優先し見守りを行なっています。更衣について介助が必要な方については、色合いをみたり、気候にあった装いをさせていただいています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	決まったメニューではありますが、医療機関からの指示やご本人の嗜好を優先し、味や形態に工夫をしています。食後の下膳についてご本人に行なっていただいています。	献立は、栄養士が作成して栄養バランスや摂取カロリーを把握していると共に水分・食事摂取量を把握している。また、楽しみなものになるよう時には外食に出かけたり、ジンギスカンパーティやラーメンの日を設けている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	統一メニューでの提供を行っていますが、食事形態の工夫や、使用する食器等にも工夫をする事で、摂取量の安定を図っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自分で出来る方、介助が必要な方がいらっしやいますが、誤嚥性肺炎等につながらぬよう、食後のケアを実施しています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄介助が必要な方については、定時でのトイレ誘導を行い排泄を行っております。それぞれの方に合わせた排泄パターンでの支援を行っています。	一人ひとりの力や排泄パターンを排泄チェック表で把握し、声かけや誘導等の工夫でトイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘薬を服用されている方もおりますが、排泄介助時に排便がされていない期間が長い場合には医療機関に相談をしています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に沿った支援をしている	現在週2回の入浴ができるようにしていますが、ご本人の希望する時間帯に入浴ができるようにしたりの支援を行なっています。	可動式の浴槽になっており、一人ひとりの希望やタイミング、生活習慣に応じて週2回の入浴を目安に支援をしている。また、拒否の強い本人にも対応した柔軟な入浴支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼寝を習慣にされている方が数名おりますが、それ以外の方については、職員側から促す等の対応をしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	定期的に処方されているものや、臨時的に処方されたものの内容については、職員それぞれが処方箋等を確認し、状態変化が見られた時には、すぐに医療機関への連絡を行なっています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご自分で塗り絵を行っている方もおりますが、他の方についてはただ黙って一日を過ごさぬよう、職員側から提案をし、実践していただくようにしています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	冬期間は外出の機会は少ないですが、気候をみながら、施設周辺の散歩を行ったり、家庭菜園を楽しんだり、気持ちが少しでも外に向けられるようにしています。家庭菜園については、地域の方のご協力を得ています。	一人ひとりのその日の希望に沿って、園芸や家庭菜園を行ったり、初詣や桜見物、外食ツアーやドライブなど普段は行けないような場所でも、戸外に出かけられるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理はなかなか難しいですが、小銭程度お持ちいただき、外出の際に使用できる場面が持てるようにしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話が主となっていますが、ご本人からご希望があった際には、職員がかけるようにし、ご家族との会話を楽しんでいただくようにしています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度や湿度は毎日4回測定し、日中や夜間帯の照明の配慮や掲示物など工夫しています	玄関や廊下等の共用空間は広くゆったりしており、明るく清潔感が漂い、行事参加の写真の掲示や季節ごとの飾り付けで生活感や季節感を採り入れて、居心地良く過ごせるよう工夫している。また、利用者にとって気になる臭いや音の大きさ、光の強さは感じられない。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	多目的ホールや食堂で自由にさせていただくようにしています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際には、新しいものを購入するのではなく、極力ご自宅で使い慣れたものをお持ちいただくようご家族にお話しをしています。実際にご自宅のお部屋に貼っていたポスター等を持って来ていただいています。	居室には、本人や家族と相談しながら、使い慣れた家具や寝具等が持ち込まれ、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室・トイレがわからなくなる方もおりますので、わかりやすい絵や文字でその場所に掲示したりしています。		

## 目標達成計画

事業所名 グループホーム エルムの里作成日: 平成 29年 2月 5日

## 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組内容	目標達成に要する期間
1	19	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	出来る限りご家族に関わっていただける様に促す。	一定の期間、面会に来られない家族に連絡を取り、本人と家族の関係が途切れないよう支援する。	3ヶ月
2	35	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	利用者の安全の確保と地域との協力体制を整える。	H30年度(4月以降)に村の災害マニュアルが新しく更新されますので、資料を確認し地域住民の受け入れ方法や物資の設置を実施していきます。	3ヶ月
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入してください。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加してください。